

事例番号:310012

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 4 日 前期破水のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 5 日

0:45 陣痛開始

4:43 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 5 日

(2) 出生時体重:3000g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.27、BE -5.3mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 7 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 5 ヶ月 寝返り未、尖足

生後 6 ヶ月 発達遅滞の診断

(7) 頭部画像所見:

生後 6 ヶ月 頭部 MRI で、先天性の脳障害を示唆する所見を認めず、その他

の明らかな異常も認めない

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 1 名  
看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 1 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 39 週 4 日、陣痛発来への訴えと破水感での入院時の対応(内診、抗菌薬投与、血液検査、分娩監視装置装着)は一般的である。
- (2) 分娩経過中の管理(分娩監視装置を連続的に装着)は一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)、ならびにその後の新生児管理(経皮的動脈血酸素飽和度測定器装着、酸素投与、閉鎖型保育器収容、小児科医による診察)は、いずれも一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) B 群溶血性連鎖球菌スクリーニングは妊娠 35 週から 37 週に実施することが望まれる。

【解説】本事例は「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」で推奨されている妊娠 33 週に B 群溶血性連鎖球菌スクリーニングが実施されて

いるが、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」では、妊娠 35 週から 37 週での実施に変更となったため、今後は妊娠 35 週から 37 週に実施することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

- ア. 脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。
- イ. 国・地方自治体に対して、妊娠中の B 群溶血性連鎖球菌スクリーニングを、「産婦人科診療ガイドライン」で推奨する時期に公的補助下に一律に実施できる制度を構築するよう働きかけることが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」では、膣分泌物培養検査 (GBS スクリーニング) を妊娠 35 週から 37 週に実施することを推奨しているが、検査費用の公的補助制度によって同時期の実施が難しい地域がある。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。